

## PHYTRA4 に参加して

福井大学大学院 博士前期課程 2年

堀田 理穂



図 1 PHYTRA4 集合写真

平成 30 年 9 月 17 日～19 日にモロッコ・マラケシュ Jardins De L'Agdal ホテルにて Moroccan Association for Nuclear Engineering and Reactor Technology 主催の第 4 回 International Conference on Physics and Technology of Reactors and Applications (PHYTRA4) が開催された。本会議では 3 日間で 6 件のプレナリーセッション、78 件の口頭発表、38 件のポスター発表があった。日本からは福井大 2 名を含む計 5 名が参加した。

台風 21 号の影響で関西国際空港が浸水被害に遭い日本からの出発が遅れたため、学会前日の Welcome Reception、1 日目午前の Opening Ceremony および Plenary Session には間に合わず途中参加となった。

今回が初めてのアフリカ大陸訪問である私にとってモロッコの空気感は衝撃的であった。マラケシュ・メナラ空港は数年前に改装されており新しく綺麗な建物であったが、一歩外へ出るとクラクションが鳴り響いていた。タクシーとバスが空港利用客の取り合いをしていたようだ。



図 2 マラケシュ・メナラ空港

会場となったホテルは空港から車で 10 分ほどの観光地にある。暖かい時期でもあり中庭のプールは観光客で賑わっていた。共に学会に参加した研究室の先生か



図 3 会場となったホテルの様子

らはゆっくり休み緊張をほぐすよう勧められたが、英語での発表に対する不安のため心の余裕がなく、時間を見つけては部屋に戻り練習を重ねていた。

今回は査読・フルペーパー付き口頭発表のセッションに参加した。1人当たりの持ち時間は発表15分、質疑応答5分の計20分である。研究内容は”任意形状に対するIGA法を用いた原子炉輸送計算手法の開発”であり、私は2次元の解析結果について、指導教員の van Rooijen 准教授は用いた理論や3次元の解析結果について発表した。

初めての国際学会参加であり、パワーポイントの発表者ツールを表示することができず原稿や経過時間を見ることができないというハプニングに見舞われた際には相当焦りを感じたが、今できる最大限の発表をしようと心掛け、辛うじて最後まで発表することができた。

発表後あまり質疑をされない参加者も少なくない中で沢山の質疑を頂いたことはとても有難く感じた。母国語の異なる方の英語を聞き取ることが難しくスムーズな返答をすることができない場面もあったが、発表後の休憩時間などに複数の方々から声を掛けていただき、簡単な英語でゆっくりと説明していただくことで意図を理解することができた。今回最も嬉しかったのは、カナダとアメリカの2名の教授から研究室のドクター学生として来てみないか、と声を掛けて頂いたことである。研究内容や英語での発表について他国の教授からも評価していただいたことは、とても大きな自信に繋がった。

他者の発表については熱水力や炉心計算など私自身の専門に近い内容が多く、英語で各国の発表を聞くことは研究内容を学ぶだけでなく発表方法を学ぶ上でも良い経験となった。

食事やコーヒーブレイクの場面では各国の教授や現地の学生などと交流した。昨年留学したときの友人と再会することができたときはとても嬉しく感じた。また外国人の方だけでなく、国際的な場で活躍されている他の日本人の方と交流できたのも良い経験となった。大学で研究しているだけでは関わることのできない社会人の方や他大学の教授から、これまでの経験や学生の中に学ぶべきことの助言などを頂いたことにより、学会後の残り半年間の学生生活はより充実したものになったと感じている。

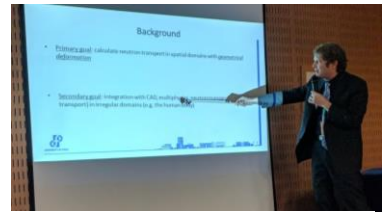
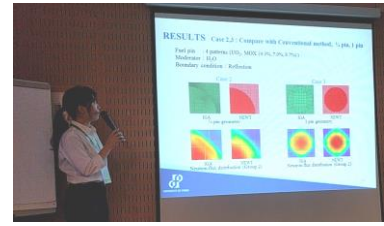


図4 口頭発表の様子  
(上:筆者、下:先生)

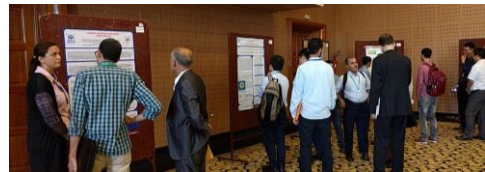


図5 ポスター発表会場



図6 左から食事会場、タジン鍋、コーヒーブレイク

2日目夜のレセプションではモロッコの郷土料理としてタジン鍋が振舞われた。また現地の伝統的な歓迎として、独特な歌や踊りを披露していただいた。

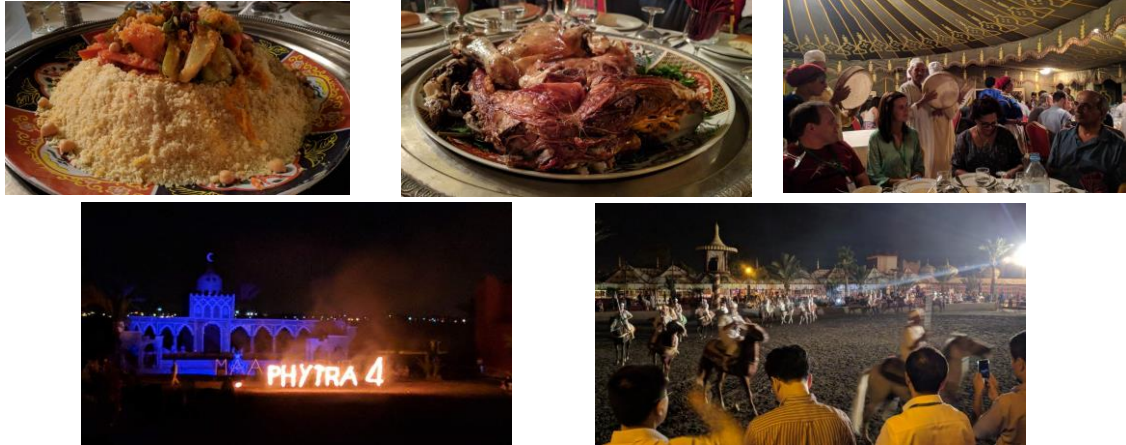


図7 2日目 レセプションの様子

学会最終日の Closing Ceremony は”皆さん観光に行きたいでしょう”という理由でキャンセルとなった。学会はじめのセレモニーなどに参加することができておらず 2 日目のレセプションでも全体への挨拶などが無かったため、最終日こそは炉物理の世界でも有名な方の貴重なお話を聴けるだろうと楽しみにしていたが残念だった。

せっかくの機会なので学会側が用意した観光ツアーに参加することにした。マラケシュの建物はすべて赤土で造られており、すべて赤茶色であった。植物園や商店街を巡ったが、一番印象的だったのは野菜と果物の値段である。アボカドの1キロ当たりの値段が日本の1個当たりの値段よりも安く、モロッコもいいところだな、と感じた。

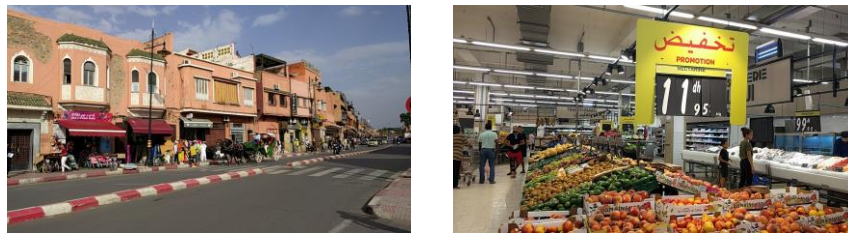


図8 マラケシュ 街の様子

学会期間を通して、学会参加費の支払いやレセプション会場へ向かうバス、観光ツアー、空港までのバスなど、しっかりとした情報伝達や運営、時間管理がなされていないためにトラブルが相次いで起き、これまでの人生で一番のカルチャーショックを受けたが日本ではできない様々な人生経験を積むことができた。今回の学会に参加することで多くのことを学ぶことができ、関わった全ての方に感謝申し上げたい。